

修士論文（要旨）
2022年1月

女性同性愛者のカミングアウトに関する事例研究

指導 松田 チャップマン 与理子 教授

心理学研究科
健康心理学専攻
220J4053
鈴木 優帰

Master's Thesis (Abstract)
January 2022

A Case Study On Coming Out Of Lesbian

Yuki Suzuki

220J4053

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yoriko Matsuda-Chapman

目次

第1章 問題と目的	1
1. 現代社会における性の多様性	1
2. 同性愛に対する認識	1
1) 同性愛者とは	1
2) 同性愛の社会的変遷	2
3. 同性愛者が抱える諸問題	3
1) マイノリティ・ストレス理論	3
2) 同性愛者に関する問題	4
3) 性的指向とウェルビーイング	5
4. カミングアウト	5
1) カミングアウトとは	5
2) 対人関係における自己開示としてのカミングアウト	6
3) 日本におけるカミングアウト	7
5. 本研究の目的	8
第2章 研究方法	8
1. 調査対象者	8
1) 属性	8
2) 抽出方法	8
2. 半構造化面接について	9
1) 面接の手続き	9
2) 面接の実施期間	9
3) 調査内容	9
4) 倫理的配慮	10
3. 分析方法	10
第3章 結果	11
1. 調査対象者	11
2. KJ法による分析	12
1) 図解と全てのグループ	12
2) グループの説明	14
第4章 考察	23
1. 女性同性愛者のカミングアウト	23
2. 女性同性愛者のウェルビーイング	26
3. 今後の課題	27

謝辭
引用文獻
資料

第1章 問題と目的

近年, lesbian (女性同性愛者), gay (男性同性愛者), bisexual (両性愛者), transgender (トランスジェンダー/身体的な性別と自認する性別が一致していない者) の頭文字を取った LGBT という言葉が日常的に取り上げられるようになった。こうした性的少数者をはじめとした多様な性のあり方は広く認知され始めており, 差別や偏見の解消が重要な問題の一つとなっている。差別や偏見は性的少数者にとってストレスの多い社会環境を作り出し, そのストレスが長期的に蓄積され, 結果として健康障害に繋がるからである (Meyer, 2003)。例えば, 同性愛者は薬物乱用 (Kashubeck-West & Szymanski, 2008) や過剰な飲酒 (Hughes, Wilsnack & Kantor, 2016) のリスクが異性愛者よりも高いことが指摘されている。

同性愛に関する心理学研究では男性同性愛者の問題を取り上げたものが多く, 女性同性愛者に関しては一貫して無視されてきた状況にあった (Lee & Crawford, 2012)。特に, アルコール摂取や摂食行動に関する問題は, 男性同性愛者よりも女性同性愛者の方が深刻であるとされている。例えば, 女性同性愛者は女性異性愛者と比べて頻繁かつ大量に飲酒を行い, アルコール関連の疾患の罹患率が高いことが明らかになっており, これは男性同性愛者と男性異性愛者の間にある差よりも大きい (Hughes et al., 2016)。女性同性愛者に関する研究が少ないことを踏まえた上で, その中でも特に健康行動に着目した研究を今後更に進めていく必要がある。

また, 同性愛者にとって重要な出来事の一つにカミングアウトがある。カミングアウトとは, 自らの性的指向を他者と共有するプロセスのことをいう。カミングアウトはウェルビーイングやクオリティ・オブ・ライフの向上, ポジティブな感情の拡大との関連性が指摘されている (Halpin & Allen, 2004)。このような「カミングアウトによる成長 (Coming Out Growth)」は, 性的少数者であることに関連するストレスへの対処に効果的であることが示唆されている (Moradi et al, 2009)。

以上のことを踏まえ, 本研究では, 女性同性愛者を対象に半構造化面接を行い, カミングアウトに至るまでのプロセスやカミングアウト前後での健康行動とウェルビーイングの変化についてその実態を把握することを目的とする。カミングアウトを中心に実際の女性同性愛者の健康行動やウェルビーイングをとらえることができれば, 女性同性愛者への支援を考える際の基礎的な知見の一つとなり, くわえて, 性の多様性が尊重される社会環境づくりに向けての示唆も得ることが本研究の意義として挙げられる。

第2章 研究方法

1. 研究方法

Web 会議システム Zoom(以下, Zoom)を用いたオンラインによる半構造化面接を行った。当初の計画では面接は1回の予定であったが, 調査対象者が2名に留まったことから, 約3ヶ月の間を開けて第2回目の面接を行った。面接時間はそれぞれ約60分ずつであった。調査対象者の同意を得てから Zoom の録画機能を使用して面接を録画し, それをもとに筆者が逐語録を作成した。

2. 研究対象者

カミングアウト経験があり, 現在, 同性愛者としての同一性を有している女性を対象とした。性的指向の問題は青年期以降の重要なテーマのひとつであることから, 年齢は 20 歳

以上とした。

3. 調査内容

面接では、事前にインタビューガイドを作成し、性的指向の自認について、初めてのカミングアウトについて、カミングアウトに対する自身の考え、健康行動とウェルビーイングについて尋ねた。

4. 分析方法

KJ法（川喜田, 1997）を参考にして質的データ分析を行った。ラベルづくり，グループ編成，図解化，叙述化の手順で行った。

第3章 結果

1. 調査対象者

多数の LGBT に関する団体に調査協力依頼を行ったものの人数が集まらなかったことから、機縁法を用いて協力を得られた2名の女性同性愛者へ調査を行った。

2. KJ法による分析

逐語録から作成したラベルの合計は188個で、最終的に8つの島（グループ）に統合された。これらの島を図解化して解釈を行い、叙述化していった。

第4章 考察

女性同性愛者の性的指向の自認について、一般的に、同性愛者は社会的な偏見から、自身の性的指向を受け入れることに苦悩することが多い（Bontempo & D'Augelli, 2002; Huebner, Rebchook, & Kegeles, 2004）。しかし、【性的指向の自認と葛藤】の島からは、『セクシュアリティに対する抵抗感は無かった』というラベルが出現しており、性的指向の自認に対して苦悩や葛藤がさほど無かったことが示された。性的指向の発達には、アイデンティティの形成と統合という二つの発達過程があるが、『偏見に触れて来ず、悪いことだと思わなかったし知らなかった』というラベルが示されており、同性愛に対する否定的な態度に接していなかったことが、アイデンティティの統合をスムーズにする要因の一つとなったことが考えられる。カミングアウトについては、『カミングアウトは差別や偏見をなさそうな人にのみする』というように、相手が同性愛に受容的であるという条件を満たせばカミングアウトをすることが語られた。同性愛者にとって、外部からの同性愛嫌悪の経験がうつや自殺の潜在的な原因となる（Cox, 2006; Haas et al., 2011; Wang, Plöderl, Häusermann, & Weiss, 2015）ように、自身の性的指向を否定されることには大きな精神的苦痛が伴うため、この条件がより重要視されていると考えられる。

ウェルビーイングについて、性愛者は精神疾患の有病率、抑うつ、不安などが高いとする先行研究（Gilman et al., 2001）と同様の傾向が示され、『孤独死しそう』というラベルに示されるように、孤独感を強く有していることが抑うつと関連していると考えられる。特に外部からの同性愛嫌悪については、そうした場面に直面する機会が多いほど抑うつは強まっていくと考えられ、同性愛者をはじめとする性的少数者に寛容な社会を形成していくことが重要であると考えられる。

引用文献

- 荒深千景 (2010) . 年齢・性役割が同性愛者に対する態度に与える影響 日本心理学会大会発表論文集, 74, 161.
- 有馬将太・園田直子 (2010) . 同性愛者のセクシャリティー研究の視点と展望ー 久留米大学心理学研究, 9, 89-97.
- Bimbi, D. S., Nanin, J. E., Parsons, J. T., Vicioso, K. J., Missildine, W., & Frost, D. (2006). Assessing gay and bisexual men's outcome expectancies for sexual risk under the influence of alcohol and drugs. *Substance Use & Misuse*, 41, 643-652.
- Bonet, L., Wells, B. E., & Parsons, J. T. (2007). A positive look at a difficult time: A strength based examination of coming out for lesbian and bisexual women. *Journal of LGBT Health Research*, 3(1), 7-14.
- Bontempo DE, D'Augelli AR. (2002) . Effects of at-school victimization and sexual orientation on lesbian, gay, or bisexual youths' health risk behavior. *Journal of Adolescent Health*, 30, 364-374.
- Burgard, S. A., Cochran, S. D., & Mays, V. M. (2005). Alcohol and tobacco use patterns among heterosexually and homosexually experienced California women. *Drug and Alcohol Dependence*, 77, 61-70.
- Chapman B.E., Brannock J.C. (1987). Proposed model of lesbian identity development: An empirical examination. *Journal of Homosexuality*, 14, 69-80.
- Cochran, S. D., Keenan, C., Schober, C., & Mays, V. M. (2000). Estimates of alcohol use and clinical treatment needs among LGBT individuals in the United States. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 68, 1062-1071.
- D'Augelli, A.R., & Hershberger, S.L. (1993). Lesbian, gay, and bisexual youth in community settings: Personal challenges and mental health problems. *American Journal of Community Psychology*, 21, 421-447.
- Denes, A., Afifi, T. D. (2014). Coming Out Again: Exploring GLBQ Individuals' Communication with Their Parents After the First Coming Out. *Journal of GLBT Family Studies*, 10(3), 298-325.
- 電通ダイバーシティラボ (2021) . LGBTQ + 調査 2020
<<https://www.dentsu.co.jp/news/release/2021/0408-010364.html>>(2022年1月5日)
- Derlega, V. J., & Grzelak, J. (1979). Appropriateness of self-disclosure. In G. J. Chelune (Ed.), *Self-disclosure: Origins, patterns, and implications of openness in interpersonal relationships* (pp. 151-176). San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- Fassinger RE, Miller BA. (1996) . Validation of an inclusive model of sexual minority identity formation on a sample of gay men. *Journal of Homosexuality*. 32, 53-78.
- Friedman, M. S., Marshal, M. P., Stall, R., Cheong, J. W. and Wright, E. R. (2008). Gay-related development, early abuse and adult health outcomes among gay males. *AIDS and Behavior*, 12(6), 891-902.

- Gillespie, B. J., Frederick, D., Harari, L., & Grov, C. (2015). Homophily, close friendship, and life satisfaction among gay, lesbian, heterosexual, and bisexual men and women. *PLoS ONE*, *10*, e0128900. <<http://dx.doi.org/10.1371/journal.pone.0128900>> (2021年6月20日)
- Gilman, S. E., Cochran, S. D., Mays, V. M., Hughes, M., Ostrow, D., & Kessler, R. C. (2001). Risk of psychiatric disorders among individuals reporting same-sex sexual partners in the National Comorbidity Survey. *American Journal of Public Health*, *91*, 933–939.
- Halpin, S. A., & Allen, M. W. (2004). Changes in the psychosocial well-being during stages of gay identity development. *Journal of Homosexuality*, *47*(2), 109–126.
- Harada, M. (2001). Japanese male gay and bisexual identity. *Journal of Homosexuality*, *42*, 77–100.
- 日高 庸晴 (2000). ゲイ・バイセクシュアル男性の異性愛者的役割と精神的健康に関する研究 思春期学, 18, 264-272.
- 堀江有里 (2008). <クローゼットから出る> ことの不/可能性--女性同性愛者のあいだに措定される<分岐点>をめぐって 解放社会学研究, 22, 102-118.
- Huebner, D.M., Rebchook, G.M., Kegeles, S.M. (2004). Experiences of harassment, discrimination, and physical violence among young gay and bisexual men. *American Journal of Public Health*, *94*, 1200–1203.
- Hughes, T. L., Wilnsack, S. C., Kantor, L. W. (2016). The Influence of Gender and Sexual Orientation on Alcohol Use and Alcohol-Related Problems: Toward a Global Perspective. *Alcohol Res.* *38*(1), 121-132.
- 石井香里 (2009). 女性同性愛者が抱える生活上の問題に対する当事者の姿勢-同性パートナーと同居する女性のインタビュー調査から- 神戸大学大学院人間発達環境学研究成果研究紀要, 3(1), 65-76.
- 石丸径一郎 (2004). 女性同性愛者・ゲイ・バイセクシュアルについて 心身医学, *44*(8), 590-594.
- 伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 (2003). 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 心理学研究, *74*(3), 276-281.
- Jordan, K. M., & Deluty, R. H. (1998). Coming out for lesbian women: Its relation to anxiety, positive affectivity, self-esteem, and social support. *Journal of Homosexuality*, *35*(2), 41–63.
- Jorm, A. F., Korten, A. E., Rodgers, B., Jacomb, P. A., & Christensen, H. (2002). Sexual orientation and mental health: Results from a community survey of young and middle-aged adults. *British Journal of Psychiatry*, *180*, 423–428.
- Joseph, G. K., Neal, A. P., Ryan, M. K. (2015). Reflecting Resiliency: Openness About Sexual Orientation and/or Gender Identity and Its Relationship to Well-Being and Educational Outcomes for LGBT Students. *American Journal of Community Psychology*, *55*, 167-178.
- Kalichman, S. C., & Cain, D. (2004). A prospective study of sensation seeking and alcohol use as predictors of sexual risk behaviors among men and women receiving sexually transmitted infection clinic services. *Psychology of Addictive Behaviors: Journal of the*

- Society of Psychologists in Addictive Behaviors*, 18, 367-373.
- Kashubeck-West, S., & Szymanski, D. M. (2008). Risky sexual behavior in gay and bisexual men: Internalized heterosexism, sensation seeking, and substance use. *Counseling Psychologist*, 36, 595-614.
- 風間 孝 (2002) . カミングアウトのポリテクス 社会学評論, 53, 348-364.
- Khadijah, M. T. & Ummu, S. M. (2020). Twitter as Safe Space for Self-Disclosure among Malaysian LGBTQ Youths. *Jurnal Komunikasi: Malaysian Journal of Communication*, 36(1), 436-448.
- Kite, M. E., & Whitley, B. E., Jr. (1996). Sex differences in attitudes toward homosexual persons, behaviors, and civil rights: A meta-analysis. *Personality & Social Psychology Bulletin*, 22, 336-353.
- LaSala, M. C. (2000). Gay male couples: The importance of comingout and being out to parents. *Journal of Homosexuality*, 39(2),47-71.
- Lee, I. C, Crawford, M. (2012). Lesbians in empirical psychological research: a new perspective for the twenty-first century? *J Lesbian Stud*, 16(1), 4-16.
- Lewis, R., Derlega, V., Berndt, A., Morris, L., & Rose, S. (2001). Anempirical analysis of stressors for gay men and lesbians. *Journalof Homosexuality*, 42(1), 63-88.
- Lick, D. J., Durso, L. E., & Johnson, K. L. (2013). Minority stress and physical health among sexual minorities. *Perspectives on Psychological Science*, 8, 521-548.
- Louderback, L. A., & Whitley, B. E. (1997). Perceived erotic value of homosexuality and sex - role attitudes as mediators of sex differences in heterosexual college students' attitudes toward lesbians and gay men. *The Journal of Sex Research*, 34, 175-182.
- Lucassen, M., Clark, T., Moselen, E., Robinson, E., & The Adolescent Health Research Group. (2014). Youth'12 the health and wellbeing of secondary school students in New Zealand: Results for young people attracted to the same sex or both sexes. Auckland, New Zealand: The University of Auckland. <<https://www.fmhs.auckland.ac.nz/en/faculty/adolescent-health-research-group.html>> (2021年5月25日)
- Manning, J. (2015) . Communicating Sexual Identities: A Typology of Coming Out. *Sexuality & Culture; New York*,19(1),122-138.
- Meyer, I. H. (2003). Prejudice, social stress, and mental health in lesbian, gay and bisexual populations: Conceptual issues and research evidence. *Psychological Bulletin*, 129, 674-697.
- Mohr, J. J., & Fassinger, R. E. (2003). Self-acceptance and self-disclosure of sexual orientation in lesbian, gay and bisexual adults:An attachment perspective. *Journal of Counseling Psychology*, 50(4), 482-495.
- 文部科学省 (2016) . 性同一性障害や性的指向・性自認に係る，児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について（教職員向け） <https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369211_01.pdf> (2021年5月19日)
- Monroe, E. J. (2001). Drawing upon the experiences of those who areout: A qualitative study

- of the coming-out process of gays and lesbians. Doctoral dissertation, *The University of Iowa*.
- Moradi, B., Mohr, J. J., Worthington, R. L., & Fassinger, R. E. (2009). Counseling psychology research on sexual (orientation) minority issues: Conceptual and methodological challenges and opportunities. *Journal of Counseling Psychology, 56*(1), 5–22.
- Morris JF. (1997) . Lesbian coming out as a multidimensional process. *Journal of Homosexuality, 33*, 1–22.
- 日本労働組合総合連合会 (2016) . LGBT に関する職場の意識調査～日本初となる非当事者を中心に実施した LGBT 関連の職場意識調査～ 〈<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20160825.pdf>〉 (2021年5月19日)
- Parker, L. L., Harriger, J. A. (2020) . Eating disorders and disordered eating behaviors in the LGBT population: a review of the literature. *Journal of Eating Disorders, 8*, 1-20.
- Rosario M, Hunter J, Maguen S, Gwadz M, Smith R. (2001). The coming-out process and its adaptational and health-related associations among gay, lesbian, and bisexual youths: Stipulation and exploration of a model. *American Journal of Community Psychology, 29*, 133–160.
- Rosario M, Schrimshaw EW, Hunter J, Braun L. (2006). Sexual identity development among lesbian, gay, and bisexual youths: Consistency and change over time. *Journal of Sex Research, 43*, 46–58.
- Rust, P. R. (2003). Finding a sexual identity and community: Therapeutic implications and cultural assumptions in scientific models of coming out. In L. D. Garnets & D. C. Kimmel (Eds.), *Psychological perspectives on lesbian, gay and bisexual experiences*, 227–269.
- Ryan, C., Huebner, D., Diaz, R. M., & Sanchez, J. (2009). Family rejection as a predictor of negative health outcomes in white and Latino lesbian, gay, and bisexual young adults. *Pediatrics, 123*(1), 346–352.
- Ryan H, Wortley PM, Easton A, Pederson L, Greenwood G (2001) . Smoking among lesbians, gays, and bisexuals: a review of the literature. *Am J Prev Med, 21* (2), 142-149.
- 三部倫子 (2014) . カムアウトする親子 御茶の水書房
- Savin-Williams, R. C. (2001). Mom, dad. I'm gay: How families negotiate coming out. *Washington D.C.: American Psychological Association*.
- 性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会 (2019) . 性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で直面する困難のリスト (第3版) 〈[http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第3版\(20190304\).pdf](http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第3版(20190304).pdf)〉 (2021年5月19日)
- 関 修 (1997) . 同性愛研究の思想的意義：医学哲学・倫理学における課題 医学哲学 医学倫理, 15, 33-47.
- 椎野信雄 (2017) . Homosexuality をめぐって～ホモセクシュアルが病気でなくなるまで～ 文教大学国際学部紀要, 27, 39-47.
- Tamagawa, M. (2017) . Coming Out of the Closet in Japan: An Exploratory Sociological Study. *Journal of GLBT Family Studies, 14*, 488-518.
- 田中みどり・今城周造 (2021) . 性的マイノリティの自己受容とカミングアウトの関連性

- の検討 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, 23, 59-74.
- Taylor, D. A. (1979). Motivational bases. In G. J. Chelune (Ed.), *Self-disclosure: Origins, patterns, and implications of openness in interpersonal relationships*. San Francisco, CA: Jossey-Bass, 110–150.
- Vaughan, M. (2007). *Coming out growth: Conceptualizing and assessing experiences of stress-related growth associated with coming out as lesbian or gay*. Doctoral Dissertation. The University of Akron, Akron, OH.
- Waldner, L. K. & Magruder, B. (1999). Coming out to parents: Perceptions of family relations, perceived resources, and identity expression as predictors of identity disclosure for gay and lesbian adolescents. *Journal of Homosexuality*, 37, 83–100.
- Wandrey, R. L., Mosack, K. E., & Moore, E. M. (2015). Coming out to family and friends as bisexually identified young adult women: A discussion of homophobia, biphobia, and heteronormativity. *Journal of Bisexuality*, 15(2), 204–229.